

第 25 回足立区住宅政策審議会 議事抄録
(平成 29 年 2 月 13 日)

[第 24 回審議会 (11/18 開催) の議事抄録について]

項番	内容
1	・高齢者単身の募集を区外にも割り振るということは、高齢者の募集枠が少なくなってしまうので、その結果バランスの良い居住の体系をつくる点では、必ずしもバランスがよくなるらない。賛成できかねるあり方だという気がする。

[企画部会の検討結果について]

項番	内容
2	・多世代居住・交流の実現について、「子供と高齢者が一緒にいるような場をつくっていくことをしっかり書けないか。都営住宅をどう整備していくかにもかかわっていく。」ということの意味を説明してほしい。
3	・借主負担型の賃貸住宅制度が分からないので教えてほしい。
4	・東松島市が出てくるが、何の事例として紹介されたのか、中身を教えていただきたい。

[(仮称) 足立区住生活マスタープラン (素案) について]

項番	内容
計画名称	
5	・今までは、住生活マスタープランという正式名称ではなかったが、これからは仮称という括弧書きを取り払って、住生活マスタープランという形で出す。
6	・「住」と「生活」の間に中黒を入れる必要はあるのか。
計画全体	
7	・公営住宅の偏在解消として、都営住宅を減らすという意味合いのことが書かれている。都営住宅を減らしていくのは、住生活マスタープランとしては正しくないと指摘をしたい。
8	・住民の多国籍化について、多国籍の方とどう仲良く住んでいくかということと、高齢化と貧困化、単身化の問題がある。そういうところを意識して住生活マスタープランを作っていく必要がある。
序章 はじめに	
9	・1 ページに、東京都住宅政策審議会の答申のことが記載してある。答申を受けて東京都住宅マスタープランの案を公表しているので、そちらの記載にした方が分かりやすくなると思う。
第 1 章 住生活における現況と課題	
10	・12 ページの公営住宅の偏在解消の中で、「公営住宅の偏在の影響は、特別区部の中で 2 番目に高い高齢化率や特別区部で最も多い生活保護者数に表れている。これらが福祉需要を増大させている状況は、区の財政への大きな負担となっている。」という表現がある。公営住宅に住まわれている方の心情を考えると、適切な表現なのか。

第2章 住生活の目指すべき姿と基本目標	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・基本目標1について、「多様なライフスタイルを持つひと」というのが、一人の人間が複数のライフスタイルを持つようにも読めてしまう。「様々なライフスタイルを持つ多様な人々が活躍できる」とするか、「多様な人々が活躍できる」とするののも一つの案だと思う。
第3章 施策の推進	
12	<ul style="list-style-type: none"> ・各施策に関連した指標の目標数値が妥当なのか。例えば、住宅の耐震化率や不燃領域率は達成可能なのか。目標を定めても、はるかに届かないのであれば、目標を定めた意味合いも薄れてしまう。
13	<ul style="list-style-type: none"> ・ワンルームやシェアハウス、重層長屋など、住宅が貧困化している。これは若い世代の貧困化が根底にあると思う。そういう点では、適切な規制をしながら、同時に若い世代が豊かな住生活を送れるような方向への誘導や対策が大事になると思う。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・町会・自治会の面が薄いのではないかと。町会・自治会の加入率が半分程度で、役員も高齢化している。それに子供会が解散している状況が多くある。高齢者の調査や声かけもしているが、全部の町会がやっているとは限らない。向こう3軒両隣の気持ちをもって、接していかなければいけないのではないかと。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・相続が発生すれば、自然と空き家が発生する。そういうときにどうしたらいいかが、地域の重要な問題になる。若い人にも住みやすいまち、町会、地域に持っていく。それと同時に、これからの子供たちにも良い環境の活動施設を作るということも、この問題の中に入れていただきたい。
16	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の活用を阻害しているのは情報不足だと思う。素案には、情報という言葉が3か所くらい散りばめられていて、これは今後の住宅政策について、空き家に限らず重要な側面になってくると思う。
17	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家は、情報提供と合わせて支援策が大事だと思う。住生活マスタープランでも支援策を拡充していくという記述を入れていく必要があると思う。
18	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都住宅マスタープランの素案は、空き家の部分を踏み込んで記載しているので、参考にしてほしい。 ・23 ページに、「既存ストックをシェアハウス等として利用する際には、法令を順守した活用がなされるよう、適切な情報提供や指導を行う」と記載してある。法令遵守は当然必要だが、活用が進まない要因を検討して、必要があれば基準の見直し等も検討するなど、何ができるかを考えていただきたい。
19	<ul style="list-style-type: none"> ・「子育て世帯の期限付き入居など、公共住宅の入居基準の見直し」となっているが、どういう意味なのか。都営住宅が10年ほど前に期限付きの募集を始めて、住宅に馴染んで自治会の役員をやるようになって、10年で出ていかざるを得ない。町会・自治会の維持という点では、期限付き入居は必ずしも良くないと思う。
20	<ul style="list-style-type: none"> ・基本目標4のところで、URの事例が書かれているが、都営住宅の事例も載せていただきたい。
21	<ul style="list-style-type: none"> ・防災について、中南部一帯が特区に指定されていて、西新井駅周辺は助成があるが、それを外れると支援策がない。マスタープランとリンクして、支援策を拡充していくことが大事だ

	と思う。
第4章 特色ある住宅地の展開	
22	<ul style="list-style-type: none"> ・56 ページの5 地域区分の表記について、西新井・江北地域とあるが、住居表示とずれがある。また、梅田・江北地域としても、宮城、新田、興本などは、自分の地域が入っていないことになる。 ・都市マスで5 地域に区分することは違和感を持っている。例えば、六町・花畑地域は、佐野が含まれていない。少なくとも綾瀬川で分かれると、全然特性が違う。特性に沿った分け方で、もう少し小分けにしてもいいのではないか。
23	<ul style="list-style-type: none"> ・62 ページのあだち型住生活モデルについて、一つの地域を一つの世帯階層で構成するよう誘導するものではないと書いてあるが、一般住民が見たときにどう思うか。モデルとしてのイメージを出したいということだが、そのモデルが逆効果になる可能性もある。